

京都大学図書館機構オープンアクセス推進事業（2016-2021）成果報告会

「オープンアクセスによって広がる教育・研究の可能性」アンケート集計

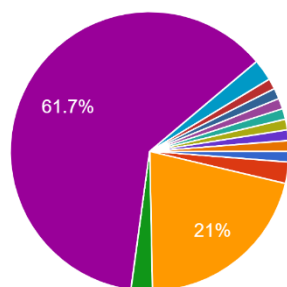
開催日時：2022年3月10日（木）10:30-12:00

アンケート回答数：81

身分

ご身分

81件の回答



- 京都大学教員
- 京都大学以外の教員
- 京都大学職員（図書館関係者）
- 京都大学職員（図書館関係者以外）
- 京都大学以外の職員（図書館関係者）
- 京都大学以外の職員（図書館関係者以外）

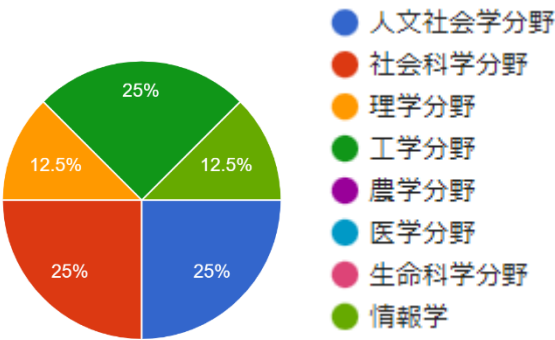
	合計
京都大学教員	1
京都大学以外の教員	2
京都大学職員（図書館関係者）	17
京都大学職員（図書館関係者以外）	2
京都大学以外の職員（図書館関係者）	50
京都大学以外の職員（図書館関係者以外）	2
その他	7

単位：人

専門分野（教員・学生の場合）

ご専攻分野（教員・学生の場合）

8 件の回答



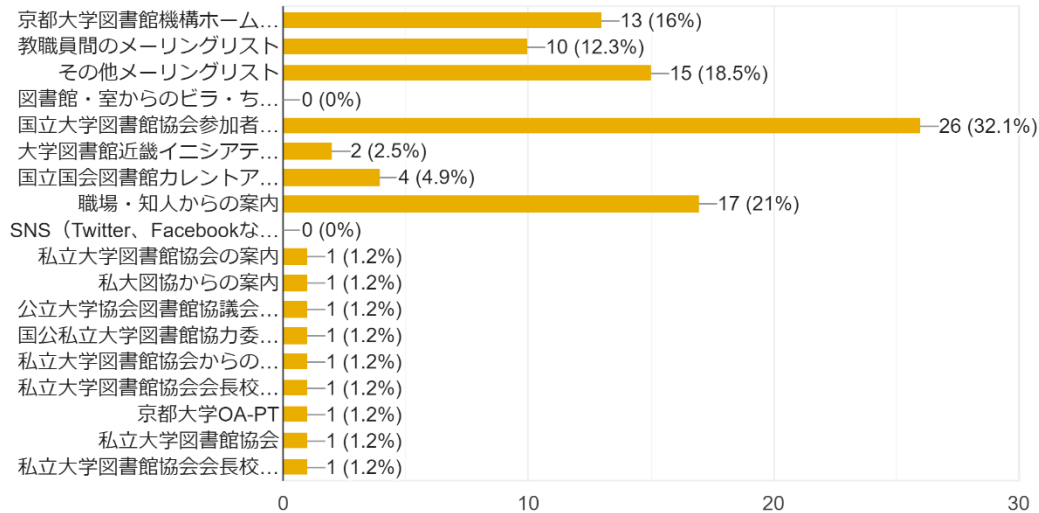
	合計
人文社会学分野	2
社会科学分野	2
理学分野	1
工学分野	2
情報学	1

単位：人

どこで成果報告会を知ったか（複数回答可）

どこでこの成果報告会をお知りになりましたか（複数回答可）

81 件の回答



	合計
京都大学図書館機構ホームページおよび各図書館・室ウェブサイト	13
教職員間のメーリングリスト	10
その他メーリングリスト	15
国立大学図書館協会参加者への案内	26
大学図書館近畿イニシアティブ参加館への案内	2
国立国会図書館カレントアウェアネス	4
職場・知人からの案内	17
その他※	9

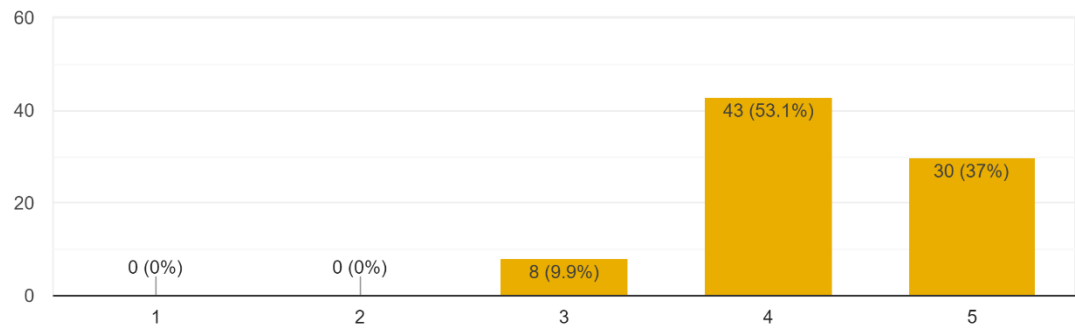
単位：人

※私立大学図書館協会の案内 1、私大図協からの案内 1、公立大学協会図書館協議会メーリングリスト 1、国公立大学図書館協力委員会事務局からののお知らせ 1、私立大学図書館協会からのメール 1、私立大学図書館協会会長校からの案内 1、京都大学 OA-PT 1、私立大学図書館協会 1、私立大学図書館協会会長校事務局からの案内 1

満足度

成果報告会の内容について満足度をお教えてください

81 件の回答

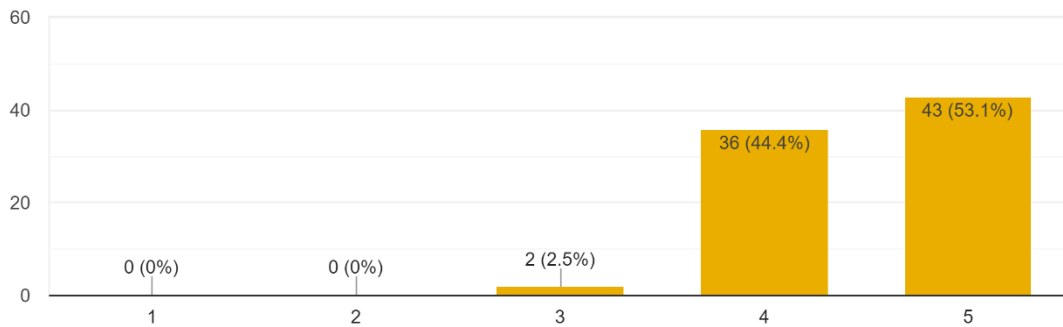


	合計
1（全く物足りなかった）	0
2	0
3	8
4	43
5（とても満足した）	30

単位：人

オープンアクセスが今後、教育・研究の可能性を広げ と思ったか

成果報告会の内容を聞いて、オープンアクセスが今...、教育・研究の可能性を広げると思われましたか
81 件の回答



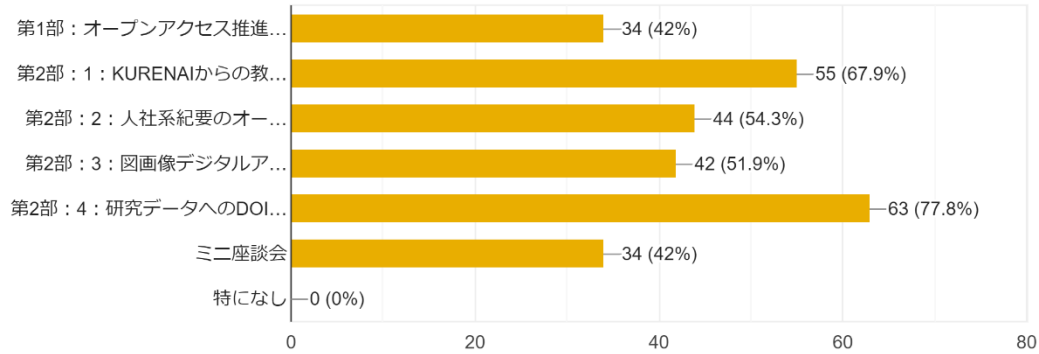
	合計
1（全くそう思わない）	0
2	0
3	2
4	36
5（とてもそう思う）	43

単位：人

興味深いと感じた講演（複数回答可）

どの講演が興味深いと感じられましたか（複数回答可）

81 件の回答



	合計
第 1 部：オープンアクセス推進事業の意義と成果	34
第 2 部：1：KURENAI からの教材の発信，その背景と課題（喜多 一教授）	55
第 2 部：2：人社系紀要のオープンサイテーションの試み（西岡 千文 助教）	44
第 2 部：3：図画像デジタルアーカイブ公開における IIF の衝撃（貴志 俊彦 教授）	42
第 2 部：4：研究データへの DOI 付与（今城 峻 助教）	63
ミニ座談会	34

単位：人

全体について、もっと聞きたいこと

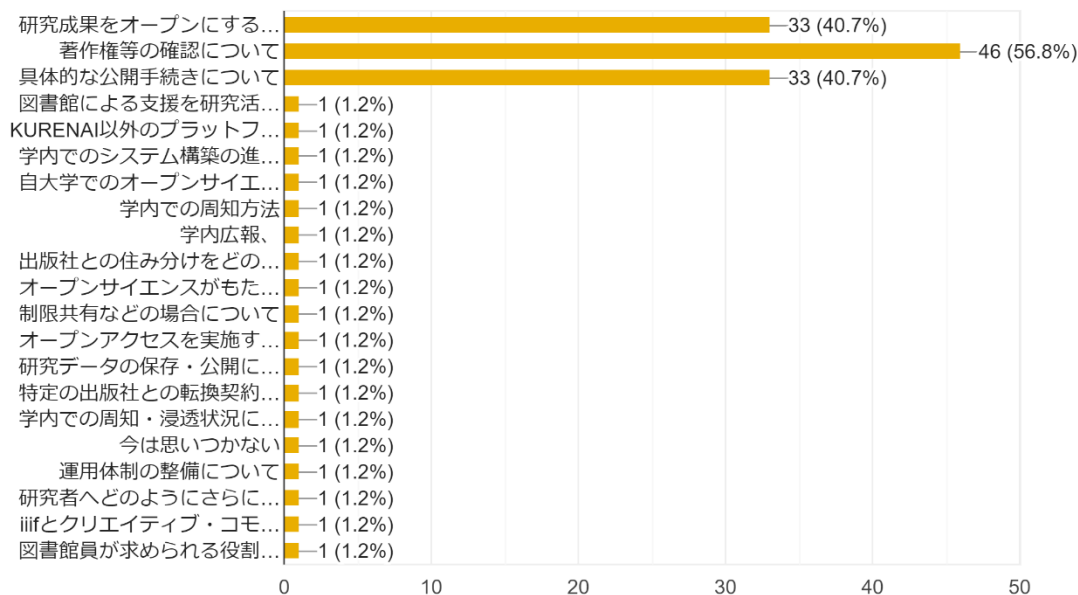
16 件の回答から抜粋

KURENAI の利用に関する学内での広報について
研究データ管理のメタデータ付与について
IIIF について、お話をもっと伺えたらと存じます。
今後の事業計画・方針など
京都大学における図書館と研究部門との連携の仕方や、役割分担。リポジトリ等の運営に携わる職員数。
オープンアクセス及びオープンサイエンスの世界的な方向性について大変学びの多い講演でした。大学の規模や組織体制により、KURENAI のようなシステム自体を独自開発・運営することが困難な場合もあります。機関リポジトリも各大学で個別に整備が広がるだけでなく、大学間で連携し、共同で利活用できるようなプラットフォーム形成へと進んでいくことを期待しています。
研究データ公開の意義について。データの管理について（ストレージの問題とか）。
DOI 付与を含めた研究データ公開について、図書館や研究者、その他部署とどのように連携されているのか、具体的な取り組み方法をより詳しく聞ければ幸いです。
図書館職員の負担具合、携わるための人材育成方法
KURENAI やデジタルアーカイブのメリットについて。先生方もそれぞれ語ってくださってはいましたが、ご自身の研究そのものにどのようなメリットをもたらしたのかや今後の可能性についてなど、研究者視点でのメリットについてもっと伺えればなお良かったと思いました。
公開した資料やデータの具体的な活用例が豊富で興味深く感じました。貴重資料デジタルアーカイブでの IIIF 使用と二次利用自由化のように、利活用を促進するような技術的・制度的取り組みが他にあればさらにお聞きしたいです。
利用しているシステムと図書館側の運用体制
デジタルアーカイブの公開について
恥ずかしながら私自身はオープンアクセス/オープンサイエンスに割と否定的な立場でしたが、本日のお話を拝聴し、時代は変わっていることを実感いたしました。大学の境界線がますます曖昧になる中で、大学としての役割・価値をどのように考えていくべきか、もっとお伺いしてみたいです。
発表の中でも述べられていましたが、教員、研究者の方々が KURENAI を公開場所として選択された動機やほかの選択肢などのお話をもっと深く聞きたかったです。喜多先生は OCW との違いなども述べられていたのでそういった点を知りたいです。

オープンアクセスやオープンサイエンス全般について、気になっていること（複数回答可）

オープンアクセスやオープンサイエンス全般について...いることがあれば教えてください（複数回答可）

81 件の回答



	合計
研究成果をオープンにするメリットについて	33
著作権等の確認について	46
具体的な公開手続きについて	33
その他※	18

単位：人

※図書館による支援を研究活動へ接続していく方策について 1、KURENAI 以外のプラットフォームとのすみわけ 1、学内でのシステム構築の進め方 1、自大学でのオープンサイエンスに対する意識の高め方について（役員・教員・事務それぞれに対する取り組み） 1、学内での周知方法 1、学内広報 1、出版社とのすみ分けをどの様に考えるか 1、オープンサイエンスがもたらす社会への影響について 1、制限共有などの場合について 1、オープンアクセスを実施する大学様の事務組織の体制 1、研究データの保存・公開について 1、特定の出版社との転換契約の是非 1、学内での周知・浸透状況について 1、今は思いつかない 1、運用体制の整備について 1、研究者へどのようにさらに浸透させるか 1、iiifとクリエイティブ・コモンズ・ライセンス（非 CC BY 資料）は両立可能かについて 1、図書館員が求められる役割や、どういう視点を持って行けばよいのかということ 1

意見・感想など

24 件の回答から抜粋

京都大学の KURENAI が、論文の OA に留まらず多様なデータを公開し、それが当の研究者や組織にとってとても有益に使われていることがよくわかりました。
せっかくの研究者からの報告なので、全体的にもう少し詳しく聞きたかったです。資料には詳しく書かれていたようなので、配布を待ちたいと思います。貴重な機会をありがとうございました。
先生方が京都大学の紅や図書館サポートに満足されて応援されていることがとても印象的でした。図書館の OA/OS 活動のお手本として、後続く大学を今後もリードしていただきたいです。本学も追いつき追い越せるよう頑張ろうと思います。
オープンアクセスに取り組む研究者の体験談を聴くことができ、面白かったです。
京都大学様での貴重な講演内容をオープンで開催いただき、ありがとうございました。素晴らしい先行事例として今後も学ばせていただきたいと存じます。
ありがとうございました。データに付加価値をつけて・・・というお話があり、方向性としてはその通りだと思いましたが、一方、費用の問題もあり、持続可能なオープンサイエンスをどう展開していくべきかは、むづかしい問題だと思いました。
オープンアクセスやオープンサイエンスを図書館を含む大学が機関として推進することや、個々の研究や研究者を支援する意義について、深く考える機会を提供していただき、大変良かったです。
情報の扱い方や探し方が変わることに一層敏感にならなければと感じました。
図書館と研究者、大学が一体となってオープンアクセス事業に取り組んでいらっしゃると感じました。OA 事業に様々な形態があることを改めて認識しました。
6 年間の事業、おつかれさまでした。第 4 期でのさらなる発展も期待しています。
とても感慨深く拝見しました。特に第 2 部のようなグッドプラクティスの事例は、もっとたくさん集めて学内外への広報に積極的に使うとよいと思いました。松井先生がおっしゃっていた「KURENAI ブランド化」の今後の進展に期待しています！
論文や研究データに続き、教材のオープン化も始まっているという点が興味深かった。
特に今城先生の研究データへの DOI 付与の話が興味深かったです。
大変参考になりました。ありがとうございました。京都大学様のようにはなかなかいきませんが、本学でも今後の参考にさせていただきます。
ミニ座談会でのデジタルアーカイブ利活用についてのお話が、先生方それぞれの視点からの課題や可能性について言及され、非常に興味深かったです。
オープンアクセスの可能性はすごいと思いました。電子ブック・電子ジャーナルが主な図書館の媒体となり図書館自体が変化していかないといけない時なのかもしれないと思いました。
オープンになっているデータや著作物を使った研究成果も知りたいです。